

A-1 学校研究の概要

1 研究主題

『学んだ知識・技能を、自ら活用する生徒の育成』
～関心・意欲を高める授業を基盤として～

2 研究仮説

仮説1

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、授業の中に学び合う場を設定すれば、「活用力（思考力、判断力、表現力等）」は高まるであろう。

仮説2

生徒の学習意欲や表現力を高める取り組みを工夫すれば、「活用力（思考力、判断力、表現力等）」は高まるであろう。

3 研究内容

(1) 授業の改善のための取り組み

① 活用力（思考力、判断力、表現力等）の到達目標の設定

活用力を身に付けた生徒像を明らかにし、その生徒像にせまるために、各教科における学年ごとの到達目標を設定した。

② 単元指導計画の工夫

どの時間で、どのような「活用力」を、どのように育てていくのかを明らかにした単元指導計画を立てることが大切である。特に、活用力を高めたい授業には「*」をつけ、単元を見通して「活用力」を身に付けるようにした。

③ 学習過程の工夫

生徒の考える力や表現する力を育むために、毎時間の授業を「つかむ・考える・深める・まとめる」の4段階で構成し、生徒の主体的な学習となるように学習過程を工夫した。

それぞれの学習過程に応じて、活動内容は「課題把握・自分の考えを持つ・学びあい・課題に対するまとめ」であることを共通理解し、学習過程に応じて、個別学習やペア学習、グループ学習などを効果的に取り入れるようにするとともに、主な教師の手だてを確認して取り組んだ。

④ 校内研修の充実

ワークショップ型を取り入れ、模擬授業による事前検討会、KJ法による授業整理会を実施し、授業力の向上に努めてきた。これにより、教科の枠を越えて、課題の提示方法やまとめについてなど、研究を深めることができた。

(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための取り組み

① 放課後学習

帰りのHRのあとの15分間、「活用力」の基盤となる基礎的・基本的な事項の習得の場として、各教科からの課題について、放課後学習として取り組んだ。

② 各種コンテスト

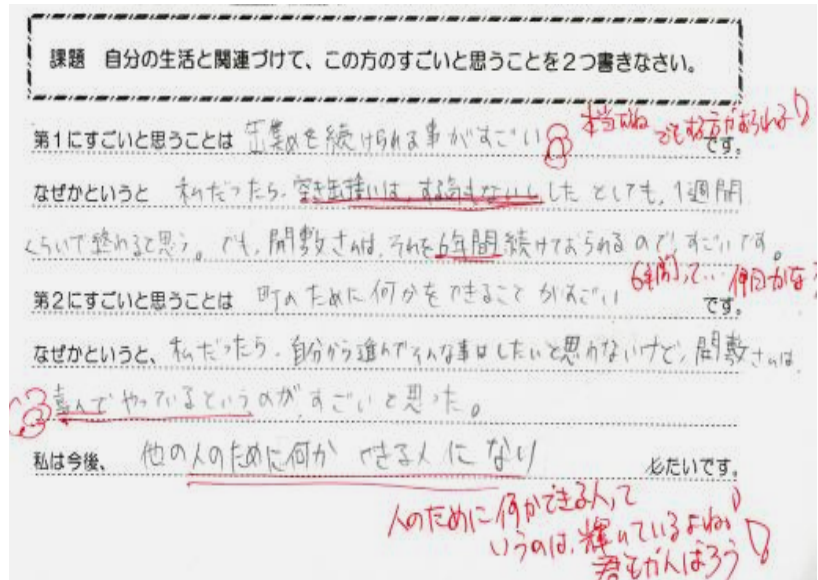
漢字コンテスト・計算コンテスト・スペリングコンテスト・地理歴史コンテストを実施した。

(3) 学習の基盤づくりのための取り組み

① 新聞記事の活用

表現する機会や場を充実させるため、新聞記事から感じたことや考えたことをその理由とともに自由な形式で、わかりやすく書くように取り組んでいる。

生徒の興味や関心を高めるため、タイムリーな話題を取り上げ、課題を作成している。



② 卒業生による講話

本校の卒業生による講演会を開催している。先輩から夢を持ち、その実現のために努力することの大切さや、中学校時代の学習が将来の基礎になることを自分の体験を通して話してもらった。

③ 高等学校等との連携

自分の将来について真剣に考え、あり方や生き方を見つめる機会として、高等学校の先生に講話をしてもらった。

また、大学コンソーシアムの事業を利用して、実験を取り入れた高等専門学校の出張授業を行った。

(4) 家庭・地域との連携のための取り組み

① 保護者との連携

各学期に1回「生活習慣チェック週間」を設けて、自分の生活を振りかえる取り組みを行っている。保健便りや様々な機会を設けて、学力をつけさせる方法の1つが、きちんとした生活習慣の確立であることを伝え、協力をお願いした。

② 地域との連携

小木地区は小学校1校、中学校1校であり、連絡会を1年間に2回開催し、子どもたちの生活習慣の様子や学力向上のための取り組みについて、話し合った。今年度は、英語の授業をお互いに参観し、意見交換を行った。

また、総合的な学習の時間に「とも旗」の製作に取り組んでいるが、地域の方にゲストティーチャーとして指導をお願いした。今年度は、金沢の大学生とも交流した。